

# 薬物乱用根絶に向けた本校の取組

京都府立鴨沂高等学校（全日制）

## 1 学校と警察との連携について

校長は上京警察署長に対し、薬物乱用にかかる最新の情報提供や薬物乱用根絶に向けての学校の取組への協力を要請する。

生徒指導部長及び保健部長を連絡担当者として、上京警察署生活安全課少年係との連携を強化し、薬物乱用根絶のための協働した取組を推進する。

学校、教育委員会と警察との情報の共有をより一層充実させるために、学校と所轄警察署との定例の情報交換会を実施する。

## 2 薬物乱用根絶に向けた取組について

- ①養護教諭、スクールカウンセラー、学校医、学校薬剤師との連携を強化し、相談機能をより一層充実させる。
- ②生徒や保護者から薬物乱用について相談を受けたときは、外部の相談窓口との連携を図り、適切な対応が行えるよう指導体制を充実させる。
- ③薬物乱用防止に関する研修会に参加し、最新の薬物事情についての見識を深める。
- ④入学予定者説明会で、薬物乱用防止とSNSや喫煙防止とを関連づけた注意喚起を行う。
- ⑤SNSを利用した薬物取得や、喫煙から薬物へ移行することが多いことを踏まえ、新入生オリエンテーションでSNS利用と喫煙に関する指導を行うとともに、「喫煙防止教室」を第1学年で早期に開催する。
- ⑥学校行事やあらゆるイベント等を通じて、「薬物防止キャンペーン」を展開し、啓発・広報を行う。
- ⑦学校として「薬物乱用根絶宣言」を行うとともに、ホームページ等を積極的に活用して薬物乱用に関する注意喚起を行う。
- ⑧生徒会による薬物乱用防止についての調査発表を全校集会で行う。  
(薬物依存症リハビリ施設の訪問や全校生徒へのアンケート調査など)

## 3 生徒指導、保護者連携について

- ①学校側が発信するだけでなく、PTAが主体となって、学校で行われる薬物乱用防止教室への保護者の参加を呼びかける。
- ②保護者懇談会や保健だより、学年通信、学級通信及びPTA広報など、学校と家庭との多様な連絡の機会や手段を通じて、情報を発信する。
- ③PTAメール配信サービスにより薬物乱用防止についての広報・啓発を行う。
- ④「学校からの連絡＝悪い知らせ」というイメージを、「学校からの連絡＝色々なことがわかる（楽しみ）」に変える。
- ⑤家庭訪問を実施するなど、保護者との連携を密にし、生徒の様子に関する情報を得るとともに、保護者の子育てに関する悩みや不安を受け止める雰囲気づくりに努める。